

関係各位

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：JA全農ふくれん営農総合課)
(公印省略)

緊急営農情報 1

台風10号接近に伴う技術対策について

気象庁によると、勢力の強い台風10号が九州に近づいています。8月29日以降に九州北部に最接近することが予想されますので、下記の事項を参考に、技術対策の実施をお願いします。

☆留意事項

気象情報を十分に確認しつつ、大雨や強風がおさまるまでは、ほ場や農業用施設の見回りを行わないで下さい。また、大雨等がおさまった後の見回りにおいても、増水した水路など危険な場所には近づかないなど、人命を最優先とした行動を徹底して事故の発生防止に努めてください。

1 水稲

- (1) 収穫早限に達しているほ場は、可能ならば台風襲来前に収穫する。
台風通過後に収穫する場合は落水管理とし、通過後速やかに収穫する。
- (2) 収穫前1週間程度のほ場は落水管理とし、成熟期を迎えたら速やかに収穫する。
- (3) 倒伏が発生した場合、共乾施設に高水分籾が荷受けされるため、共乾施設では乾燥に時間がかかることを想定して荷受けを行う。
- (4) 強風による倒伏や葉の裂傷、稲体表面からの蒸散作用により脱水症状となる「急性萎凋症状」が発生する恐れがあるため、台風通過時は深水管理を行う。
- (5) 台風通過後のイネは水分の吸収が盛んになるため、通過後数日間は、ほ場の水を切らさない程度に湛水状態を保つ。
- (6) 冠水した場合には、早急に排水を図り、冠水時間を短くする。排水後は、できるだけ新しい酸素を含んだ用水との入れ替えを実施する。

2 大豆

- (1) 大雨による停滞水を、出来るだけ早くほ場外に排出するため、台風襲来前に畦溝や排水溝の整備を行う。
- (2) 本暗きよの栓を開けて排水する。
- (3) 台風通過後に、再度、畦溝や排水溝の点検・整備を行う。
- (4) 葉焼病の発生に留意し、発生に応じ対策をとる。